漁港は
魚の保育園
http：//www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

令和2年2月15日　発行
毎月　1回15日発行
編集兼発行人　公益社団法人　全国漁港漁場協会
橋本　牧
東京都港区赤坂1－9－13三会堂ビル8階
電話　東京（5114）9981
定価　1部　70円
（会員の購読料は会費の中に含む）

漁港漁場漁村整備促進議員連盟が総会

「全国の水産業・漁村を守り支える」

漁港漁場漁村整備促進議員連盟（会長・衛藤征士郎衆議院議員）は、1月30日午前8時30分から自民党本部で総会を開き、会務・会計報告を行うとともに、令和元年度水産基盤整備関係補正予算案、令和2年度水産基盤整備関係予算案について水産庁から聴取した。

青木一彦事務局長（参議院議員）の司会で議事が進められ、最初に、衛藤会長から「皆様方には、日頃より、漁港・漁場・漁村の整備促進にあたり多大なご尽力を賜っていることに感謝申し上げる。昨年、鳥取県及び兵庫県で実施した現地視察と現地意見交換会、財務省への要請活動等に多くの先生方の参加を得た。おかげで立派な予算を確保することができた。今後は、我が国の水産業や漁村を取り巻く課題に対処するとともに、スタートした水産改革をしっかりと支えていく必要がある。今後とも先生方のご指導で支援をいただき、全国各地の水産業及び漁村を護り、支えるとの観点から引き続き議連としての役割と責任を果たしてまいりたい」と挨拶があった。

挨拶する衛藤会長

続いて伊東良孝農林水産副大臣から、「漁港漁場漁村整備促進議員連盟の先生方には日頃から大変お世話になっている。漁港漁場の整備をしっかり行いながら水産資源の持続的な活用を図っていきたい」と挨拶。また、加藤寛治農林水産副大臣から、「令和2年度予算や令和元年度の補正予算の確保にあたり先生方のご支援に感謝する。水産国日本の振興発展のために今後とも適切に取り組んでまいりたい」と挨拶があった。

漁港漁場整備の重要性を訴える坂本会長

続いて、青木事務局長が令和元年度の会務・会計報告を行い、新たに12名の国会議員の加入があり、現在、会員総数は156名となったことが報告された。

次に、吉塚靖浩水産庁漁港漁場整備部長から、令和元年度補正予算及び令和2年度水産基盤整備関係予算案について、予算の考え方や具体的な内容について資料に基づき説明が行われた。また、漁港漁場整備長期計画の進捗状況について四つの政策課題毎に成果目標に対する現在までの達成状況が説明された。

続いて、水産庁の説明に関連して、漁港漁場関係団体からの発言が行われた。最初に、（公社）全国漁港漁場協会の橋本牧会長から、議連の先生方には平素よりご指導とご支援をいただいていることに対する御礼と、令和2年度の予算については、厳しい環境の中で前年度を上回る予算を確保いただき先生方の力強いご支援に対して漁港関係団体を代表し御礼申し上げる旨発言があった。

次に、地域を代表して（一社）千葉県漁港漁場協会の坂本雅信会長（千葉県漁連会長）から、昨年の大型台風等による被害に対し、先生方や水産庁にいち早く対応していただいたことに謝意が示された。また、漁港や陸上施設、組合事務所等が老朽化していたこともあり、被害が拡大した。漁港は物流機能を持っており、災害がおきた時に道路が寸断しても物資を運ぶことができる。その機能を維持することが重要であり、漁港の整備はこれから先も一所懸命にやらねばならず、そのためには先生方や国のご支援をお願いしたいとの要請があった。

その後、意見交換が行われ、出席議員からは、「遠隔離島周辺における漁場整備・利用可能性調査の内容について」、「地方の漁港からも水産物輸出が可能となるよう、漁港施設のハサップ対応やトレサビリティの対応が重要」、「糸満漁港において、漁業取締船が利用する岸壁・泊地等を直轄事業で整備する予算の確保に感謝する」、「議連によ る現地調査に参加して、居住空間を整備した漁船を視察した。乗組員確保のためにも、環境変化に対応した漁船とその大型化した漁船のための漁港整備が重要」、「漁業体験見学船を視察したが、子供たちに漁業をみせ、魚を食べさせる活動は重要」等の意見や要望が多数出された。

最後に、衛藤会長が、「これからの5年間は大変重要であり、現状の課題を正確にとらえて、ロードマップを共有し、タイムスケジュールをしっかりとこなしていく取組が重要。このため、議連としては今後とも皆様方とともにしっかりと対応していきたい」と挨拶し、総会は閉会した。

本人出席の国会議員は次の通り（順不同、敬称略）37名

〔衆議院議員〕
衛藤征士郎、井林辰憲、伊東良孝、江渡聡徳、加藤寛治、金子恭之、金子万寿夫、神谷昇、木村次郎、高鳥修一、谷公一、冨岡勉、中谷元、中村裕之、西田昭二、西銘恒三郎、野田毅、浜田靖一、林幹雄、福山守、藤井比早之、藤丸敏、牧島かれん、松本剛明、三原朝彦、宮内秀樹、宮腰光寛、宮澤博行、山本有二

〔参議院議員〕
青木一彦、猪口邦子、江島潔、加田裕之、進藤金日子、滝波宏文、堂故茂、藤木眞也

代理出席は41名。

令和元年度

漁港漁場関係担当課長会議を開催

水産庁

水産庁は、1月31日、農林水産省7階講堂において、令和元年度漁港漁場関係担当課長会議を開催し、都道府県漁港漁場整備担当課長ら関係者約105名が出席した。

最初に、山口英彰水産庁長官から、「一昨年末に水産改革のために漁業法等が改正され、今年12月までにガイドラインや政省令が整備され施行される。水産改革で重視していることは適切な資源管理を行うことであり、資源に見合った漁業を行うためには、漁獲報告をきちんと提出していただくこと、産地市場の漁港にどれだけ水揚げされたかを把握し報告していただくことが必要。これらの情報をどのように集約していくかスマート水産業と言っているが、その中で漁港整備をどのように関与させるか、計画の作成にあたっては、将来を見据えた漁港整備を検討していただき、つかえる漁港の整備について考えていただきたい。また、TPP対策として輸出促進のための整備が行われているが、その効果分析が求められている。更に、人口減少社会の中で漁港の役割を考えていく必要があり、浜に人をどう定着させていくか、将来を見据えた漁港の整備を検討する必要がある」と挨拶した。続いて、吉塚靖浩漁港漁場整備部長から、「漁港漁場整備は、平成29年に策定された漁港漁場整備長期計画をベースに水産改革と連動して漁港漁場整備を行っており、本日の会議では漁港漁場整備部の担当官から詳細に説明する」として主要事項についての概要に触れつつ挨拶があった。

担当者が各課の業務を説明

引き続き、小幡浩一整備課総括班長による司会のもと、各課の説明が行われた。先ず、山本竜太郎計画課長より、水産基盤整備の着実な執行についての要請と、漁港漁場整備長期計画が令和3年度で終了するため、来年度から新計画の検討が始まるため、良いアイデアと忌憚の無い意見の提出について要請があった。

計画課所掌業務については担当者から説明があった。

・漁港機能増進事業及び地方創生港整備推進交付金（牧野稔智利用調整班長）
・水産物の輸出促進対策及び水産基盤整備調査（江川和隆調査班長）
・次期長期計画策定に向けた取組、地方財政措置等（中村克彦計画班長）
・漁港管理条例の改正状況（澤田龍治管理班長）
・令和2年度予算概算決定等の概要（水産基盤整備関係事業）（高原裕一事業班長）
・水産多面的機能発揮対策事業（城崎和義企画班長）

次に、浅川典敬整備課長より、事業の執行状況の説明と確実な執行についての要請とともに、技術者が不足している市町村支援対策を現在検討しており、3月に向けて3本の施策を準備している等の紹介があった。整備課所管業務については担当者から説明があった。

・会計実地検査について（的野博行上席漁港漁場専門官）
・インフラ長寿命化、漁港の有効活用（漁港水域での増養殖）（山﨑将志機能高度化班長）
・水産庁等における市町村支援に向けた取組、水産基盤整備事業に係る実施上の留意点、水産物供給基盤機能保全事業等の推進（不動雅之企画班長）
・直轄漁港漁場整備事業（宮地健司整備班長）
・水産庁における品質確保に向けた取組（的野賢司施工積算班長）

次に、中奥龍也防災漁村課長から、海岸関係予算や災害対策についての状況、浜プランの多くが1期を終了するため、成果の検証が求められていることなどについて説明があった。防災漁村課所管業務については担当者から説明があった。

・令和2年度水産海岸事業関連予算（鳩野弘毅海岸班長）
・国土強靱化の対応（金田拓也防災計画官）
・令和2年度漁港関係等災害復旧事業予算（西﨑孝之総括災害査定官）
・令和元年発生自然災害の被害と対応（田中郁也水産施設災害対策室長）
・浜の活力再生プラン及び浜の活力再生広域プラン、農泊（渚泊）推進対策（平野智巳国際漁業情報分析官）
・農山漁村地域整備交付金、地方創生推進交付金のうち地方創生汚水処理施設整備推進交付金（劔崎聖生環境整備班長）、
・水産業競争力強化緊急施設整備事業、浜の活力再生・成長促進交付金のうち水産業強化支援事業、水産業共同利用施設復旧整備事業（中西亮太構造改善施設班長）
・離島関係交付金（佐藤茂漁村企画班長）

令和元年度

磯焼け対策全国協議会開催

水産庁主催による「令和元年度磯焼け対策全国協議会」が、令和2年2月7日（金）、東京都千代田区の全国都市会館において、三百名近くの参加者により開催された。

協議会は、水産庁漁港漁場整備部吉塚靖浩部長の「全国の関係機関から多くの方々に参加いただきありがとうございます。本会議も今回13回目を数えることになりました。これまで全国各地の優良事例、研究開発の成果などを関係者間で情報共有をしてきており、現在までに、藻場の回復を検討し、水産資源の回復の兆しが出てきていることは、当協議会や関係する皆様方の取組の成果であると認識しております。

多くの関係者が参加した

水産庁は、これまで漁港漁場整備長期計画の重点課題として、豊かな生態系の創造と海域の生産力向上を位置づけ、磯焼けの進行などの海域環境の変化に対応するため、ハード・ソフト対策や技術の開発・普及、当協議会等による情報の共有の3つを藻場保全対策の柱として取り組んでまいりました。

特に、昨年は、主要な魚種の記録的不漁や台風による災害など気候変動の影響を免れませんでした。海域環境に関しても明らかに変わってきているという認識が広がってきており、こうした課題に的確に対応していくことが求められております。

こうした中、来年度、磯焼け対策ガイドラインの見直しを行うこととしております。

それに先立ち5月中旬に長崎県対馬市で磯焼け対策現地視察会を予定しております。

磯焼け対策を実施している現場を直接見て意見交換ができればと考えております。詳細が決まりましたら水産庁のホームページに掲載するとともに、本日ご出席の方々にご案内申し上げます。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

本日の協議会は、午前の部では磯焼けの現場からの取組について、午後の部では磯焼け対策に関連した話題提供として、海外の磯焼けの現状やブルーカーボンに関する情報、環境変化を踏まえた藻場造成について発表いただきます。

更にパネルディスカッションでは、「藻場・干潟ビジョンを踏まえた藻場保全活動に向けて」と題して、総合討論を行います。

発表者の皆様には、当協議会での発表をご快諾いただいたことについて、重ねてお礼を申し上げます。

最後に効果的な磯焼け対策を実施していくため、行政・研究・現場の皆様の一層の連携が不可欠であり、本協議会がご出席の皆様にとって有意義なものとなりますよう期待しますとともに、皆様方の今後のご活躍とご健勝を祈念いたします」との挨拶で始まった。

協議会は、全体を3つのテーマに分け、それぞれのテーマに沿った内容の発表が行われた。

①各地域からの報告

○ガンガゼ駆除および母藻投入による藻場回復活動：福岡県水産海洋技術センター　林田宜之

○紀北町島勝浦でのガンガゼ駆除による藻場保全：三重県紀北町農林水産課　五味祐汰、三重大学大学院生物資源学研究科　倉島彰

○遮光シートによるウミアザミ駆除の取組とその効果：熊本県水産研究センター　齋藤剛

○五島市における磯焼け対策：長崎県五島市水産課　三井寛之

②磯焼け対策に関連した話題提供

○海外での藻場・磯焼けについて：東京海洋大学大学院海洋生物資源学部門　藤田大介

○ブルーカーボンを用いたCO2吸収源対策と今後の展望：水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所　堀正和

○高知県における海水温上昇に伴う藻場の変化と藻場造成の取り組み：高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設　田中幸記

③パネルディスカッション「藻場・干潟ビジョンを踏まえた藻場保全活動に向けて」

〈話題提供〉

○藻場・干潟ビジョンの策定状況について：水産庁計画課　片石圭介

○北海道での藻場・干潟ビジョンについて：北海道水産振興課　上條明日菜

〈パネルディスカッション〉

○コーディネーター：水産研究・教育機構水産工学研究所　桑原久実

○パネラー：藤田大介、倉島彰、田中幸記、片石圭介、上條明日菜

会議は、参加者から多数の質問が出され、盛会の中、水産庁漁港漁場整備部整備課浅川典敬課長の挨拶により閉会した。

13市が情報を密に

第36回幹事会を開く
特定第三種漁港市長協議会

特定第三種漁港を有する全国13の市長で構成する特定第三種漁港市長協議会（会長・菅原茂気仙沼市長）の第36回幹事会が、1月28日午後から霞が関の商工会館において開催され、中村隆水産庁漁港漁場整備部計画課長補佐外を来賓に迎え、13市の担当課長又はその代理者が出席した。

開会にあたり幹事長の村上秀一気仙沼市産業部参事兼水産基盤整備課長が「令和2年度の水産基盤整備予算は水産物の輸出促進や大規模自然災害に備えた対応力の強化などに重点が置かれている。水産業の発展には流通拠点漁港としての特三漁港の役割は大きく、我が国の水産業のけん引役としての役割を果たしていきたい。特三市長協議会として、13市が情報を密にして特三漁港の機能向上のため、国・県に働きかけていきたい」と挨拶をした。

来賓の中村課長補佐は「特三漁港は、全国水産業の中核となっている。令和2年度の水産基盤整備予算は昨年以上の確保が出来た。特三市長協議会等が予算獲得活動をしっかりやって頂く事が漁港整備につながるので頑張って欲しいし、活発な要望なり意見を出して欲しい。引き続き支援をお願いしたい」と挨拶した。

議事に移り、第26回通常総会を11月4日（水）に三浦市で開催すること及び総会の付議議案書（案）について確認をした。

講演会では「令和2年度予算概算決定及び令和元年度補正予算について」と題し、白谷将基計画課技師が講演を行った。

終了後、来賓を交え情報交換会を行った。

令和元年度

漁港漁場関係担当職員研修会開く

山口県漁港漁場協会

漁港漁場関係担当職員研修会の様子

山口県漁港漁場協会（会長＝椎木巧・周防大島町長）は、1月14日（火）、山口市内の翠山荘において、県及び市町の漁港漁場関係担当者約50名の参加による令和元年度漁港漁場関係担当職員研修会を開催した。この研修会は、県と漁港漁場協会の共催により毎年開催しているもので、今回で41回目となる。

研修会は、主催者を代表して藤江耕二山口県漁港漁場整備課長の挨拶に続いて講義が行われ、出席者は熱心に聴講していた。

演題と講師は次のとおり。

＊防災・漁村事業について
山口県漁港漁場整備課
整備班主査　藤井雅宏

＊水産基盤整備事業について
山口県漁港漁場整備課
整備班主任　古谷誠

＊漁港施設の財産処分について
山口県漁港漁場整備課
計画班主査　髙林尚弘

＊漁港管理条例について
山口県漁港漁場整備課
漁港管理班主査　石橋教幸

浜の構造改革推進に向けた誓いと感謝の夕べ

乾杯の音頭をとる大水の白須会長（右端）

全国漁業協同組合連合会と大日本水産会は2月12日午後5時から、令和元年度補正予算並びに令和2年度予算の確保に向けたご支援・ご協力に対する感謝と水産業の構造改革に全力で取り組んでいくための「浜の構造改革に向けた誓いと感謝のタベ」を自由民主党本部で開催し、全国の漁業関係者のほか、多数の国会議員が駆けつけた。

全漁連の岸宏会長が主催者を代表し「1年少し前に漁業法が改正され、浜では、現在、浜の将来展望を切り開くために頑張ろうとの機運が溢れている。裏付けとなる令和2年度予算編成も、3000億円を超える予算となり感謝している。今後は予算をしっかりと活用し、浜が良くなるよう皆様とともに頑張っていきたい」と挨拶した。

来賓の浜田靖一自民党水産総合調査会長からは「漁業の構造改革は大きな課題であり、今後とも浜の期待に応えていきたい。

各地の水産物等が並び、懇談が行われた。

また、予算委員会等のために遅れて参加された石破茂自民党水産基本政策委員長、鈴木俊一自民党総務会長、衛藤征士郎漁港漁場漁村整備促進議員連盟会長、西村康稔経済再生担当大臣、小泉進次郎環境大臣等の国会議員や山口英彰水産庁長官からのご挨拶があり、多くの国会議員や漁業関係団体が参加した。川崎一好全国漁業協同組合連合会副会長の中締めが行われるまでの間、和やかな懇談が行われた。

漁港往来

自1月1日
至1月31日

1月14日（火）
全国漁港漁場協会佐治総務部長は宮城県へ出張

1月21日（火）
北海道苫前町長福士敦朗氏

1月23日（木）
全国漁港漁場協会佐治総務部長は宮城県へ出張

1月29日（水）
全国漁港漁場協会佐治総務部長は岩手県へ出張